

東京ディズニーランドにおける バリアフリー地図アプリケーションの開発

中央大学附属高等学校 2年 野口智代

はじめに



図1. インフォメーションブック『インフォメーションブック』の課題
(出典: 東京ディズニーリゾート公式ホームページ)

東京ディズニーランド(以下、TDL)は、障害のある人、一時的に体の機能が低下した人、妊娠中の人、高齢者がパークを効率よく楽しむためにサービスや施設を案内するガイドブック『インフォメーションブック』が公式ホームページからダウンロードできる(全75ページ)

1. アプリケーション版がない
→テキスト情報が多く、スマートフォンからは読みにくい
2. 『改正障害者差別解消法』施行: 2024年4月1日
→障がいのある人等への合理的配慮の提供が義務化されたのでウェブアクセシビリティの改善が必要
3. アトラクションの情報はあがるが周辺の視空間的な情報が乏しい→車いすや杖の利用者にとって移動に不安が残る

移動のバリアフリーに焦点をあてたiOSの地図アプリケーション『TDLバリアフリーマップ』を開発する



図3. 合理的配慮のリーフレット
(出典: 内閣府ホームページ)



図2. 『TDLバリアフリーマップ』概要図



図4. 『TDLバリアフリーマップ』アイコン

システム概要

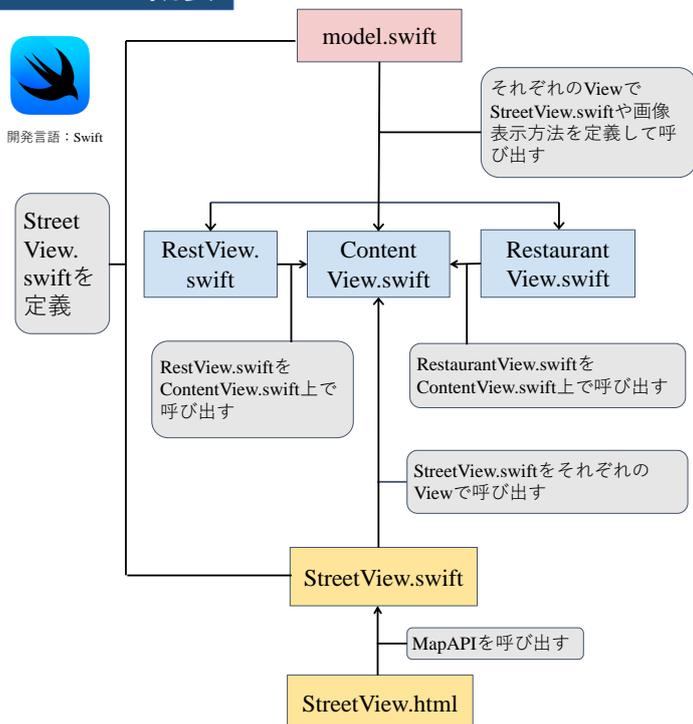


図5. 『TDLバリアフリーマップ』システム概要図

実践結果

『TDLバリアフリーマップ』動作の流れ

2024年10月24日実施

1. 目的地に応じて**3つのマップボタン**(アトラクション・多機能レストルーム・レストラン)からマップを選択
※赤ボタン(アトラクションマップ)中心に記載
2. **GPS**で現在地を確認
3. 目的地のピンをタップ→**青のピン**は「**車椅子のまま利用可能**」、**黄**は「**乗り換えと同伴者が必要**」、**赤**は「**単距離歩行が必要**」と色分け→シンデレラ城を選択
4. シンデレラ城のバリアフリーの情報を確認
5. シンデレラ城の周辺を**Googleストリートビュー**で確認
6. マップを変更し、多機能レストルーム選択→全て車いす可だが確認事項の数でピンは色分け 青<黄<赤)

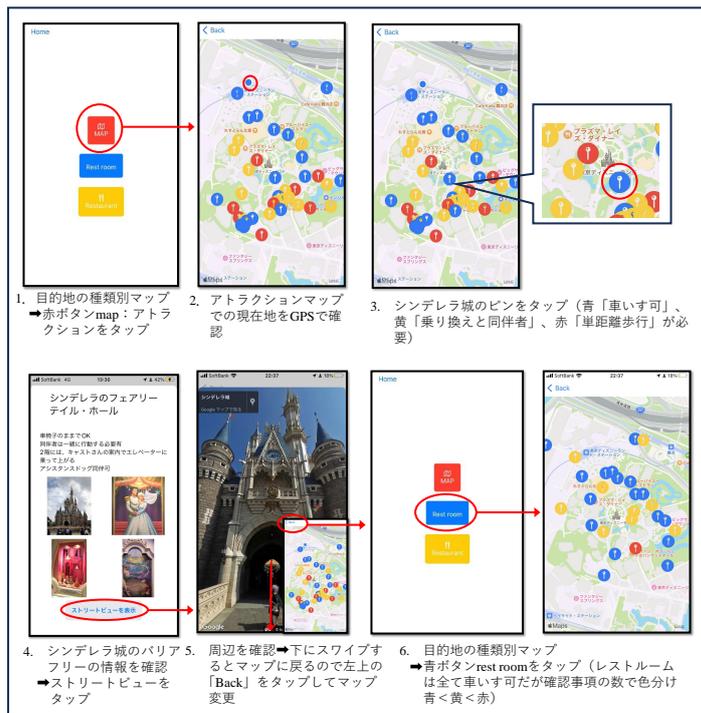


図6. 『TDLバリアフリーマップ』の流れ

結論

- ・『TDLバリアフリーマップ』の開発に成功した
 - ・『インフォメーションブック』と比べ、TDLのバリアフリー関連情報の約85%をスマートフォンのアプリケーションに入れることができた(入れなかった情報は用語の説明等、移動に直接必要がないもの)
 - ・ストリートビューで事前に目的地周辺を確認し、GPSで現在地を把握できる『TDLバリアフリーマップ』は**視覚的にわかりやすく便利**である
→ゲストが必要な情報が容易に得られれば、キャストへの質問や負担も軽減する可能性がある
- 『TDLバリアフリーマップ』はゲストとキャストの両方に役立つため、**ウェブアクセシビリティサービスの改善として有効**である

今後の展望

- ・現在地から目的地までの経路・距離・時間の表示、アトラクションの混雑などがわかる機能も追加したい

参考文献

東京ディズニーリゾート公式ホームページ『インフォメーションブック』(閲覧日: 2024年10月1日)

https://media2.tokyodisneyresort.jp/home/download/bfree/informationbook.pdf?_gl=1*ei3u3*_gcl_au*MTQ2MzYzOTQ2MS4xNzI4MTk4OTQ1*_ga*MTA3NjYyOTU3NS4xNzI4MTk4OTQ2*_ga_CW1JLMP4BH*MTcyODE5ODk0NS4xLjAuMTcyODE5ODk0OC41Ny4wLjA